

# ◆河川の調整池（調節池）と下水道の雨水貯留施設の直接接続等による連携

## ■ 現況と課題

### ■ 現況

・当該排水区内において、下水道の雨水レベルアップとしての増補管を整備し、下水道施設の排水能力を上回る降雨に対しては、下水道管より雨水を河川の流域調節池に越流させ、連携して浸水被害を防ぐ。

### ■ 課題

・地形や排水特性上、浸水被害を防ぐための効果的な施設配置

被災状況



## ■ 計画の考え方や対策検討の経緯

### ■ 計画の考え方

・寝屋川流域における総合治水対策として、河川と下水道の施設分担計画1/10確率降雨までの処理を下水道が担う。本市では、実験式から合理式1/10確率降雨への雨水レベルアップとして、増補管を整備する。

・さらに、下水道施設の排水能力を上回る降雨に対しては、放流施設以外の内水浸水対策として、河川による流域調節池を整備する。

### ■ 経緯

・平成2年4月「寝屋川流域整備計画」の策定（総合治水対策の実施）

・平成4年2年「東大阪市雨水レベルアップ計画」の策定

→河川と下水道の相互連携による事業展開

### ■ 対策に至る比較検討など

・流域調節池の整備については、河川部局により下水道の排水能力を考慮した浸水シミュレーションなどを実施し検討を行った。

## ■ 浸水対策の概要

### ■ 対策の概要

・下水道増補管については、既設の幹線より雨水を分水させ浸水被害を防ぐ。  
 ・下水道施設の排水能力を上回る降雨に対しては、下水道管（既設幹線および増補管）より流域調節池に越流させ、浸水被害を防ぐ。

### ■ 工夫

・下水道増補管は、流出制御方式による貯留併用施設であり、整備後段階的に貯留運用を行いながら浸水に備えた。

・流域調節池についても、下水道増補管の整備水準に合わせた段階的な接続（堰高の調整や接続管の変更など）による暫定供用により緊急かつ効率的に浸水被害の軽減を図った。

・日頃より河川部局との連絡調整を密に行い、連携を図った。

## ■ 浸水対策の効果

### ■ 対策の効果

昭和57年8月2日

・時間最大雨量 40mm

・10分間雨量 10mm

・連続雨量 112mm

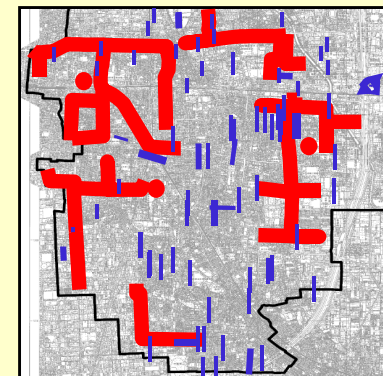
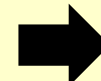
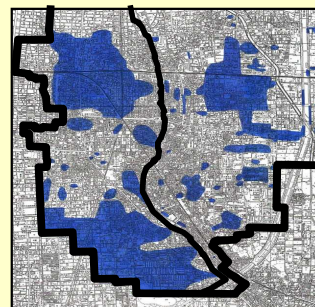
平成25年8月25日

・時間最大雨量 54mm

・10分間雨量 24mm

・連続雨量 98mm

青: 浸水区域  
 赤: 雨水増補管  
 及び流域調節池



◇整備状況(S57)  
 増補管整備延長: 0.0km

◇浸水被害の状況  
 床上浸水: 655戸  
 床下浸水: 11,663戸



◇整備状況(H25)  
 増補管整備延長: 21.7km  
 (進捗率80%)

◇浸水被害の状況  
 床上浸水: 2戸  
 床下浸水: 58戸